

1. むらづくりの主体

- (1) 名 称 のうじくみあいほうじん いわきえいのう
農事組合法人 岩木営農
- (2) 所在地 とやまけんなんとしいわき
富山県南砺市岩木 1 3 9
- (3) 地区の規模 集落の集合体
- (4) 組織の性格 地縁的な集団
- (5) 代表者の氏名 だいひょうしゃ ふりがな しまだ とよかず
嶋田 豊一
役 職 代表理事

2. 地区の概要

総人口	農業就業人口	総世帯数	総土地面積	耕地	採草放牧地	山林	
287人	65人	73戸	ha	61.3ha	0ha	120ha	
農家戸数	販売農家数	専業農家	第Ⅰ種兼業農家	第Ⅱ種兼業農家	主業農家	準主業農家	副業的農家
65戸	65戸 (100%)	0戸 (0%)	1戸 (2%)	64戸 (98%)	1戸 (2%)	64戸 (98%)	0戸 (0%)
地域指定状況			農業地域類型区分				
農振、森林、振興山村、過疎、 特定農山村、その他			市 町 村		当 該 地 区		
			中間農業地域		中間農業地域		

3. むらづくりの内容及び成果

(1) 地域の沿革と概要

ア 地区の位置

南砺市は、富山県の西南端に位置し、北部は砺波市と小矢部市、東部は富山市、西部は石川県、南部は 1,000 メートルから 1,800 メートル級の山岳を経て岐阜県と隣接している。

本市は、白山国立公園等を含む森林が 8 割を占め、岐阜県境に連なる山々に源を發した庄川や小矢部川の急流河川が北流し、市北部の平野部では、水田地帯の中に美しい「散居村」の風景が広がるなど、独特の集落景観を形成している。



図1 位置図

イ 地区の農業

農事組合法人岩木営農がある岩木集落は南砺市の北西部、石黒地区内にあり、小矢部川と県境に続く丘陵地帯に挟まれ、5つの小さな谷と8つの溜池があり、中央部には古い歴史を有する荊波（うばら）神社がある。耕地面積は 61.3ha、73 戸の集落で、谷あいのほ場では日照不足や粘質田のため耕作条件が不利な農地も多く、水稻を中心とした営農となっている。

(2) むらづくりの動機、背景

ア むらづくりを推進するに至った動機・背景

岩木集落では集落ぐるみで大豆の転作組合を設立し、集団転作に取り組んでいた。しかし、①「コメ」を巡る情勢の変化、②兼業化、③集落内でも若者の離村、④高齢化、⑤耕作放棄地の発生、耕作依頼者の増加など⑥むら機能の低下への対応並びに⑦各農家が更新時期の農機具を抱え、⑧個人で一連の農機具を所有するコストを無視した農業を続けること、⑨集落内の人と人との結びつきが弱くなってきたことを、当時の 40 歳代を中心とする次代を担う後継者たちは強く感じ始めていた。

イ むらづくりについての合意形成の過程とその内容

平成 9 年 3 月に任意集落営農組織「岩木営農組合」を設立すると同時に、平成 9 年度地域農業経営確立支援事業を活用して育苗施設や大型作業機械を導

入し、経営の効率化、合理化や集落営農体制の強化に取り組んだ。

ウ 現在に至るまでの経過

平成 18 年に旧岩木営農組合の経営方針を受け継いだ「農事組合法人岩木営農」を設立した。

組合員が住む岩木集落では、溜池の泥上、江^{えざら}浚い、草刈り、農道補修等の作業を岩木岩安自治会（農家割合 9 割）が行っており、平成 12 年から中山間地域等直接支払制度を、平成 19 年から農地・水・環境保全向上対策事業の実施を契機に自治会内に新たに「岩木環境」を組織化することで、全戸で農村環境整備・環境美化に取り組み、当組合と連携し、事業を活用した地域交流を進めている。

また、女性や高齢者の活躍の場を作るため、「ファームサービスさくら」を立ち上げ、キュウリの粕漬け「うばら漬」の加工し販売するとともに、個人では防除作業等ができない高齢者農家への対応策として、当法人の中核を担う中高年の仲間で「ファームうばら」を組織化、作業受託し、集落の農業生産や当法人の運営を側面から支援している。

近年、イノシシ侵入防止のために電気柵の設置に取り組み、25 年末までに延長約 4.0km の設置を行った。

(3) むらづくりの推進体制

ア (農事組合法人) 岩木営農の組織の体制、構成の状況

- ・農事組合法人岩木営農は組合員 6 2 戸
役員 8 名
- ・総会 年 1 回
- ・6 つの専門部が中心となって活動

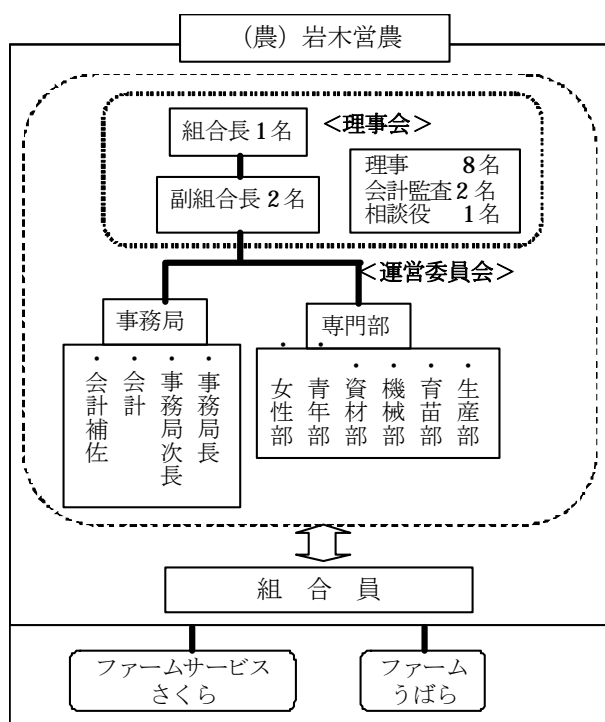


図 2 むらづくり推進体制図

イ 主要の構成団体連携してむらづくりを行う他の組織、団体及び行政との関係

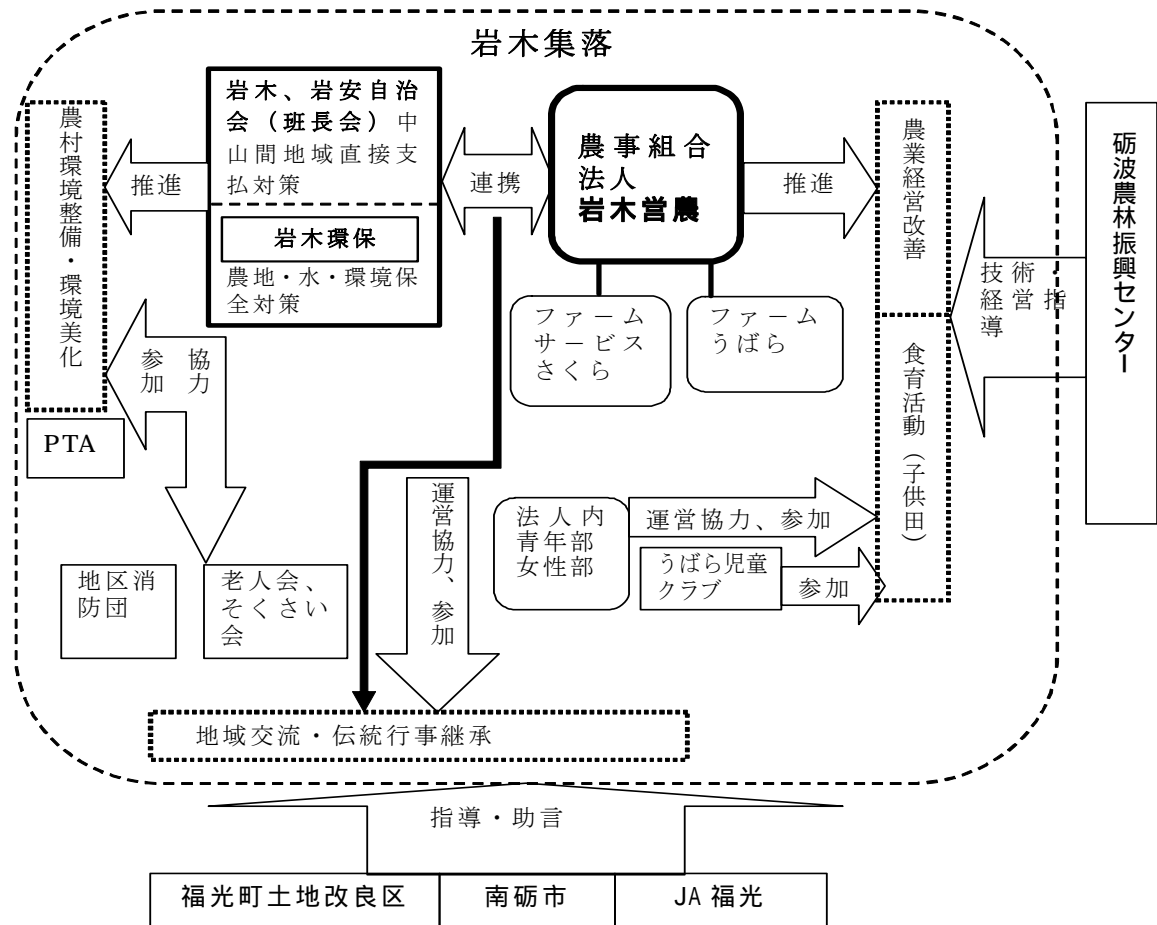


図3 関係機関及び団体との連携図

ウ むらづくりに関して、各集落の住民の当該集団等や連携する他の組織、団体との関係及び参加状況

むらづくり活動には、組合員を含めた全戸が参加できるように自治会が主体となる実施体制づくりに努め、その自治会の班長会には当法人の代表と岩木環境の代表でもある副組合長が参加し、情報交換や意見交換を行い、農村環境の改善や農家間のきずな、地域の交流を深めていくことを共通の認識として左義長、江浚い、春祭り、草刈り、高齢者の慰労会等の行事を催すとともに、また、毎年、当法人主催の田上り祭や収穫祭は集落全戸に案内しており、例年、家族ぐるみで多数の住民の参加があり、世代間を超えた交流ときずなを築いている。

(4) むらづくりの農林漁業生産面への寄与状況

ア 当該集団等の農林漁業生産、流通面の取組状況

作付品目は水稲、大麦、大豆を中心にピーマン、キュウリの複合化品目にも積極的に取り組んでいる。法人化後は、収穫時期やブロックローショ

ンを考慮したより合理的な作付けを推進し、適正な労働配分、コストの低減や収量の向上による所得の増加に努めている。

水稲では、谷あいの粘質田は日照時間が短く収穫が遅れるため、倒伏に強い早生の酒造好適米「五百万石」を毎年固定して栽培し、中生は主に「コシヒカリ」、晩生は主に収量性の高い「てんこもり」等を栽培、早生:中生:晩生=40:41:19として、バランスの良い作付けを実施することによって、機械・施設・労力の効率的な活用を図っている。

イ 当該集団等による生産力の向上、生産の組織化、生産・流通基盤の整備等への寄与状況

ほ場では土壌分析結果を基に鶏糞や珪酸質資材を積極的に施用し、近年では大麦の作付跡に地力増進作物を栽培し、土づくりによる高品質で美味しい米の生産に努め、技術研修会等への受講も積極的に参加し、その成果として平成23年からコスト削減を図る水稲直播面積の一層の拡大を進め、平成25年から生産性を向上させる直播用種籾の加温処理を行い苗立の安定化に努めている。

大豆は、排水対策の徹底、栽植本数の確保や狭畦密植の試験栽培等により収量・品質の向上につなげている。

経営のより一層の安定向上を図るためにピーマンなどの野菜を導入するとともに水稲育苗ハウスを有効活用した栽培を始めるとともに、露地野菜についてはJA福光の重点品目のブロッコリーを中心に栽培し、県の一億円産地づくり施策の推進にも協力し、取り組んでいる。



ウ 当該集団等の活動による構成員等の経営の改善、後継者の育成・確保、女性の経営参画の促進状況

営農計画は毎月1回開催される運営委員会で細部を検討し、組合員に対して活動の理解・浸透を図り、組合員に平成25年は地代、管理料、平均出役賃金を支払い、農業所得の確保に努めている。

当法人では後継者育成事業として「子供田」を設置し、青年部と女性部が中心となり、うばら児童クラブ員が田植、収穫、モチつきやおにぎり作りなどの食育活動を実施しており、平成13年以来続け、その活動が広く認められ、19年に「富山県ふるさとづくり賞優秀賞（食育推進活動部門）」を受賞した。

また、後継者は30代前半頃から県農林水産公社の講習による農耕用大型特殊自動車免許やフォークリフト運転技能資格を取得している。機械作業は原則60歳までの組合員を中心に行い、60歳代からは補助作業を担うとともに、機械操作が不慣れな若手を指導しながら操作技術の向上を図っている。

当法人の女性部は、「子供田」で収穫したお米を使った料理などの食育活動を担うとともに、毎年、当法人が主催する田上り祭と収穫祭では、鍋物等の料理のほか、青年部と協力して餅等を提供するなど、集落内の恒例行事にも大きな役割を果たしている。



(5) むらづくりの生活・環境整備面への寄与状況

ア 生活・環境整備面の取組状況

当法人の組合員が主体となっている自治会が生活・環境整備活動として、農道への砂利補充、用排水路の江浚い及び雑草地の草刈り、水田の畦畔や法面への芝の植栽を行い、用排水路管理や害虫の発生防止に努めている。

さらに、児童クラブやPTA主催の道路沿いや公民館周辺への花の植栽など、集落内の環境美化活動を支援している。

イ 当該集団等による生活条件の改善・整備、コミュニティ活動の強化、都市住民との交流等への寄与状況

伝統行事の「地元のわらを使ったしめ縄作り」は一時、途絶えそうになったが、自治会と連携し、使うわら（新大正糯）や作業場所の提供し、各世代の組合員の協力により、荊波（うばら）神社への奉納を継続している。

また、モデル的な農業経営体として県内外からの農業視察の受け入れや都市住民との交流活動の一環として平成 24 年には J A 福光青年部主催の農業体験を組み込んだ婚活イベント「農業で愛 in 福光 2012」の会場としてピーマンのハウスを提供し支援した。平成 25 年 12 月には民間放送教育協会の番組作成に協力し、「新大正糯」栽培やモチつき風景、しめ縄づくり等の伝統行事が紹介され、同月に地元放送局が赤ネギ栽培が紹介するなど、地域振興にも貢献している。



ウ 当該集団等の活動による地域への定住促進状況等

岩木集落は、市街地から離れており、少子高齢化が進んでいる。しかし、自治会と当法人が強く連帯することにより、地域の生活環境や農業経営環境の改善に努めている。

さらに、青壮年層の活躍の場や世代を超えた交流も多いことから、他地区から移り住む人も出てきており、現在、集落内には空家は見受けられない。